

人と関わるのが好きだから

2人とも「人との交流」がとにかく大好き。旅行に行ったときなども農家の方の家に民泊したり、ホームステイをしたりすることがほとんどです。

将来的にはブルーベリーを使ったメニューを楽しめるカフェや、国内外の旅行者の方が農業を体験できるような民泊を始められたら素敵だなと思っています。これからもブルーベリーが繋いでくれた出会いなどを大切に、たくさんの方と交流しながら自分たちらしく「笑顔」で頑張りたいです！



2人にインタビュー

就農された率直な感想は

収穫期は、毎朝5時に起床して6時にブルーベリーの収穫。8時から午後1時くらいまで果実の選別・出荷作業と摘み取り園の開園準備。一息ついたらまた夕方まで出荷作業などの繰り返し。基本的にはこれが毎日続きます。

正直なところ、慣れない農業に体力がついていかず、体調を崩してしまうことがあります。また、子どもが小さいので家事や育児をしながらの仕事は思うようにいかないことも多く、大変に感じるときがあります。

それでも、家族や周りの方に支えてもらいながら、自分たちなりの工夫・協力でなんとか乗り越えています。健康と体力づくりをこれからの課題として、無理をしすぎることなく、焦らずしっかりと成長していきたいです。



摘み取りの様子



人気の自家製ジャム

この仕事のやりがいとは

自分たちが一生懸命大切に育てたブルーベリーや、心を込めて作った自家製のジャムなどを食べたお客様に「おいしい」と喜んでもらえることが何よりも嬉しいです。

また、摘み取り園に来園されたお客様が楽しんでくれたりする姿を見ると、私たちの方が嬉しくなり、この仕事を選んでよかったなとすごく思います。2人とも人と交流することが大好きなので、お客様の笑顔を見ながらコミュニケーションを取って仕事ができていることは、日々の活力にもなっています。

ブルーベリーの魅力とは

青空の下、摘んですぐに食べられることです。また、すっきりとした甘酸っぱさがくせになり、皮や種も丸ごと食べられて栄養満点。これから、もっともっと人々の身近な存在になれる可能性を秘めているものだと思います。

芝山町に来て感じたことは

緑豊かで「人と人との繋がりがすごくある町」だと感じました。私たち自身もこの町に来てから初めて会った方が誰かの知り合いだったり、人づてにうちのブルーベリー農園のことを知ってくれたりして、何かしらの繋がりが出てくることに驚きが多かったです。

また、空港が近いということ、自然の中で生活しながらも都心や海外へのアクセスがしやすいのは、思っていた以上に便利でした。

あとは、新規就農をするにあたって、役場の方や地元の農業委員の皆さんが親身になっていろいろなアドバイスをくれました。そのおかげで申請できた農業次世代人材投資資金は、収入面の不安を大きく緩和してくれました。



- ① こだわりの事務所の様子
- ② お手製のハーブティでもてなし
- ③ 将来の看板娘たち！自宅を飼っています





あれから4年。 2人が思い描いた『夢』は、 たくさんの思いを抱きながら、 今『現実』のものとなった。



4年前の結婚式の様子

2人が思い描いた『夢』

4年前の夏、えりこさんの伯父が経営していたブルーベリー農園で結婚式を挙げた2人。多くの方に祝福され、幸せのひと時を過ごしたことで夢の一つを叶えた2人でしたが、同時にもう一つの夢を描くようになりました。

それは、将来自然豊かで人の温もりを感じる「この町で生活がしたい」という大きな夢…。当時の2人は都内勤めで多忙の毎日。拓也さんは夜勤や休日出勤も多く、家族で過ごす時間がなかなか取れないことに苦悩していました。そんな毎日を送る中、子どもが生まれたことで日に日に「家族と一緒にいられる時間を増やしたい」という思いが大きくなりました。

自分たちの決断で夢を『実現』

「家族と一緒にいたい」という思いと「描いた夢を実現させたい」という思いが重なりはじめた頃、それらの思いを実現するために2人は大きな決断をしました。

それは、芝山町に移住すること。そして、その地でえりこさんの伯父が経営するブルーベリー農園を引き継いでいくこと。もちろん、勤めている会社を辞めることでの収入面や、農業未経験である自分たちが本当にやっていけるのかという不安が2人を最後まで悩ませました。それでも、経験豊富な伯父や周りの方がサポートしてくれることや、家族で夢を実現させたという強い思いが2人の背中を後押ししました。

現在の営農状況

こうして、ずっと思い描いていた「夢」を自分たちの意思と決断のもと、新規就農者という形で「実現」させた2人の新たな挑戦が始まりました。

今年の10月に家族全員で芝山町に移住し、実際にブルーベリー農園の経営に携わり始めました。現在、夫婦で約50aほどの面積でブルーベリーを栽培し、「果実の販売」「摘み取り園の開園」「自家製ジャムの販売」を主要としています。そのほかにも、自家製ジャム作り体験の開催や、地域のイベントにも積極的に参加しています。

将来的には、伯父が管理している約200aの農園を5年かけて継承していく計画がありますが、まだまだ勉強することが多いので、日々いろいろなことを吸収しながら成長できるように家族で支え合って頑張っています。



色鮮やかな果実